



JAC Tochigi

発行元 日本山岳会栃木支部 発行元住所 〒321-1262 栃木県日光市平ヶ崎 176-4 渡邊雄二方

2013 年

4 月号【第 6 号】

2013(平成 25 年) 4 月 1 日発行

栃木支部報

6 号

目次

- p 1. __ユースクラブ発足へ！！
- p 2. __『山』の記事から
- p 3.-8. __会員投稿のページ
- p 9.-24. __2012 年度の活動の足跡
- p 25.-p26. __後藤会員の学校が山の雑誌に掲載されました
- p 27. __支部会員名簿、総会の記録
- p 28. __事務局より、あとがき

ユースクラブ発足へ！！

2013(平成 25)年 5 月 18 日(土)の栃木支部通常総会に議案として提出される予定であるが、『JAC YOUTH 栃木』(仮称)設立が検討されている。

県内高校の山岳部は『栃木県高等学校体育連盟登山部』に所属しており、登山大会や講習会、各高校独自の山行等で登山技術を身につけ、山にこよなく魅了される高校生岳人が育っている。これらの山岳部からは毎年多くの卒業生が輩出するので、これらの若き岳人をこの『JAC YOUTH 栃木』会員として受け入れ、支部の活性化をはかるのが設立の大きな目的である。

加えて彼らの活動場所、拠り所を提供したいというのも設立の趣意である。県内の高校山岳部卒業生が卒業後も山登りを続けていく活動拠点として、従来「マロニエクラブ」という組織が存在していた。しかし現在は事実上解散状態であり、新たに設立が予定されるこの組織のもつ求心性に期待が高まる。

若き岳人を支部に取り込んで、彼らの登山活動を物心両面にわたって支部が支援すると同時に、彼らが支部活性化に寄与してくれることを期待したいものである。

JAC 本部においては、すでに昨年 4 月 1 日の公益財団法人日本山岳会発足に時を合わせて『YOUTH CLUB』が発足している。その詳細については、会員各位のお手元の本部会報『山』に紹介されているので、参照されたい。参考までにその抜粋を次ページに転載したのでご覧下さい。

また、JAC 本部HPにも『YOUTH CLUB』のサイトが立ち上がっており、その力の入れようも推し量ることができる。参考までに『YOUTH CLUB とは』というページがあったので紹介する。

YOUTH CLUB は、2012 年 4 月に発足した若手を主体とする委員会です。指導委員会・青年部委員会・学生部指導委員会を含めた組織で、次代をめざした活動を行うことで創設されました。

本会 100 年余の歴史で初めて、中堅・若手会員の育成・獲得を目指す活動を行います。その活動の中心となるのが講習会です。講習会は 39 歳以下を対象とした中・上級コース、および初心者も含めた 59 歳以下対象のハイキングと机上基礎講習会です。なかでも 39 歳以下女子限定の FULBARI Series は新しい試みとして注目されています。

講習会は、ハイキングや自然観察会からはじまり、沢登り、縦走、雪山、クラシカルルート登攀、フリークライミング、山スキー、雪上訓練、雪崩講習等々、当会ならではのオールラウンドな講習を行い、山の魅力を伝えると共に、事故防止と最新登山技術の普及・向上に努めます。これには、おもに指導部・青年部・学生部に所属している会員やプロガイドがあたります。

会員になった仲間には、さまざまなジャンルの登山を経験して自分に合った形態の登山を見つけてもらいたいと考えています。その登山を突き詰めていくことによって、いかなる世界においても、充実した時間と素晴らしい仲間による豊かなクラブライフに支えられた人生を共に楽しんでいけるでしょう。

平成 23 年度第 2 回通常総会開催

「公益社団法人」スタートへ準備整う ユースクラブ立ち上げ

平成 23 年度第 2 回通常総会は 3 月 17 日午後 2 時から東京・六番町の主婦会館プラザエフで開かれた。会員 127 人が出席し、平成 23 年度補正予算案のほか、平成 24 年度事業計画・予算案、海外登山基金一部取り崩し案、定款施行細則変更案などについて審議、いずれも拍手多数でもって承認された。公益社団法人日本山岳会は 4 月 1 日登記し発足する。会の再生をかけて YOUTH CLUB を立ち上げる。

.....

■ YOUTH CLUB

2 年で 200 人の若い会員増を図る

従来の JAC-YOUTH プロジェクトを発展的に解消。学生部、青年部、指導委員会を統合し「YOUTH CLUB」として立ち上げることになった。...

これによると現在、60 歳以上の会員が 80% を占める。また毎年、物故、退会、除籍で 260 人を超える数の会員が減少しており、会員増とくに若い会員をふやすことが急務になっている。新入会員は 19 年度 107 人、20 年度 90 人、21 年度 99 人、22 年度 156 人、23 年度見込み 200 人超と回復しつつあるが、なお減少に追いつかない。たまたま海外登山基金の一部取り崩しを要請されたこともあり、24 年度は取り崩す 1630 万円のなかから 500 万円を YOUTH CLUB の活動費に充てる。

2 年間で 39 歳以下 100 人、40~55 歳 100 人の計 200 人を増やす計画だ。できれば 40 歳未満の会員を年間 100 人ずつ増加させていきたい。そのために広報活動を強化、ホームページを充実させる。講習会、また野外活動を行なう。共同装備を整える。実践的は活動にはプロガイドを講師として派遣する。上高地山研にウェザーステーションを設置する。これらを通じ、世代のリーダーとなるような人材を育成していく。

【『山』2012(平成 24)年 4 月号】

YOUTH CLUB 誕生が描く次代の 日本山岳会

YOUTH CLUB 委員 永田弘太郎

ことし 4 月に誕生した YOUTH CLUB は、これまでの青年部委員会、学生部委員会、学生指導委員会を“有機的”に統合させたものである。近年の登山ブームに乗って単に若い会員を増やすことではなく、これまで日本山岳会が築いてきた登山の歴史と文化、実力と若手のパワーを融合させようという試みであり、日本山岳会の今後に大きく関わる重要な事業である。

■ YOUTH CLUB の発足式

2012 年 4 月 1 日、YOUTH CLUB が発足し、18 日に発足式が行われた。39 歳以下の若者を中心におよそ 50 人がプラザエフ(東京・市ヶ谷)の会場に集まった。新しく YOUTH CLUB 委員長となった野沢誠司理事の司会のもと、尾上昇会長はあいさつのなかで、いくどとなく「君たちに新しい日本山岳会を作ってほしい」と強くメッセージを述べた。...

■ YOUTH CLUB 発足の背景

YOUTH CLUB という組織は、尾上会長の提案で発足した JAC-YOUTH プロジェクトが発展解消したもので、永続的な活動をするために委員会として発足し、再スタートを切った。そして従来からの青年部委員会、学生部委員会、学生指導委員会を有機的に統合して統括する組織となった。

JAC-YOUTH プロジェクトにはいくつかの目的があった。「若者を入会させること」「若者を育てること」である。人によってはここに、「海外遠征に行くこと」「日本山岳会の活性化」「新しい日本山岳会を作ること」などがついていた。

背景には、当会の高齢化による存続の不透明性、大学山岳部の衰退による入会予備軍や指導者の減少、さらには山ガールなどの山ブームがあった。そのため大学山岳部へのサポートやワンダーフォーゲル部などを含めた学生の掘り起こしなどを行う一方、社会人の若者も集める方向で取り組むことになった。...

【『山』2012(平成 24)年 5 月号】

1 前田文彦会員からのオハイオ通信の続報です

○前田文彦・洋子ご夫妻は、2011(平成23)年4月から1年間、転勤で米国オハイオ州に居住しておられた。すでに2012(平成24)年4月1日には帰国されたが、『オハイオ通信』の続報(第3回・第4回)が届いており、支部通信とともに会員の手元に配布されているが、ここに再掲する。

オハイオ通信 第3回

Fumihiko "Charlie" Maeda Jul,15,2012

●一年足らずの駐在を終え日本に戻ってきたら、4月に発行された栃木支部報に一年前に書いた「オハイオ通信 第1回」と「第2回」が記載されていました。このままだとまだアメリカにいると思われるので、帰国のご挨拶とともに、第3回(コロンバス近郊の見所)と第4回(ラスベガスからロサンゼルスへの旅行)を発行させていただきます。

●第2回で紹介した Hocking Hills は State Park ですが、州都の憩いの場所としてコロンバス近郊には Metro Parks (コロンバスがあるフランクリン郡の公園 <http://www.metroparks.net/>) が15ほどあります。色々な野生植物・動物がいる中で森林浴やピクニック、サイクリングなどが楽しめます。その中で2つほど紹介します。

① Scioto Audubon Park

Hocking Hills にある自然の岩場は前号で紹介しましたが、ボルダリングやトップロープでのクライミングが出来る人工岩場はコロンバス ダウンタウンの中心部を流れる Scioto 川沿いのこの公園にあります。こぢんまり (71acre) とはしていますが、ウェットランドで水鳥の観察が出来るほか、ドックパークやピクニックエリアで楽しめます。

② Highbanks Park

コロンバスの北側にある 1158acre の広大 (と言っても並ですが) な公園です。0.4miles から 3.5miles までの7本のトレイルがあり、うち3つはペットをつれて歩けます。Scioto 川の支流 Olentangy 川沿いにあり自然と景観が豊かなことから、前回の駐在時には週末にちょくちょく来て歩き回っていました。当然のごとく野生の鹿を見ることもあります。公園事務所は自然観察センターになっていて、3.7億年前この一帯が海で覆われていた時にいた甲冑魚のレプリカの他、展示物があります。



Scioto Audubon Park 内の Climbing Wall(高さ 35feet)
地面にはクッションを入れて衝撃を和らげている



カミさんと
愛犬ミッチー

●アメリカで一番活気が出てくるのは10月下旬のハロウィン(Halloween)に始まり、11月下旬の感謝祭(Thanksgiving)、そしてクリスマス・新年のカウントダウンまでの2ヶ月間です。日本のひな祭りとお盆とクリスマスが一気に年末に集中するような感じです。写真はコロンバスの北東にあるSunburyという(幌馬車隊の宿場町だった)町のクリスマス祭りです。

クリスマスパレードですが、クリスマスの日に行われる訳ではありません。それぞれの町でお祭りは勝手に？行われています。このときは12月上旬でした。楽しんだ後、最後は地元特産品即売会でジャムを買って帰りました。ところで、人口4千人ほどのSunburyにも資料館があります。南北戦争時代の服装などの展示が主でしたが、パールハーバーその日の新聞も中にありました。日本だと「終戦の日」ですが、アメリカでは「パールハーバー」が同じように毎年話題になります。そしてこの町にも帰還できなかった出征兵士の碑がありました。

●クリスマス後は、コロンバス北東にあるペット同伴可能なWhite Oak Innに2泊3日で行きました。周りに何も無いところ(森林の中にぽつんとある一軒)ですが、夫婦連れなど(静かに泊まるという感じで)2~3組来ていて、彼らのアメリカの余暇の過ごし方を感じながら、のんびりと仕事を忘れて過ごしました。

近く(と言っても車で1時間は走りますが)には、オハイオ州で一番長い木造のCovered Bridge(屋根付き橋)やAmishに人たちが暮らす地域があります。観光スポットになっていますが、Amishの趣がある家具など買うことが出来ます。ここでは見た夢を逃がさないで捕まえる先住民から伝わるDream Catcherを手に入れました。

今回の駐在では期間が短かったため、どこかに出かける機会はほとんど無かったのですが、次回第4回では帰国直前に行った、ラスベガス~ロサンゼルスへの旅を報告します。

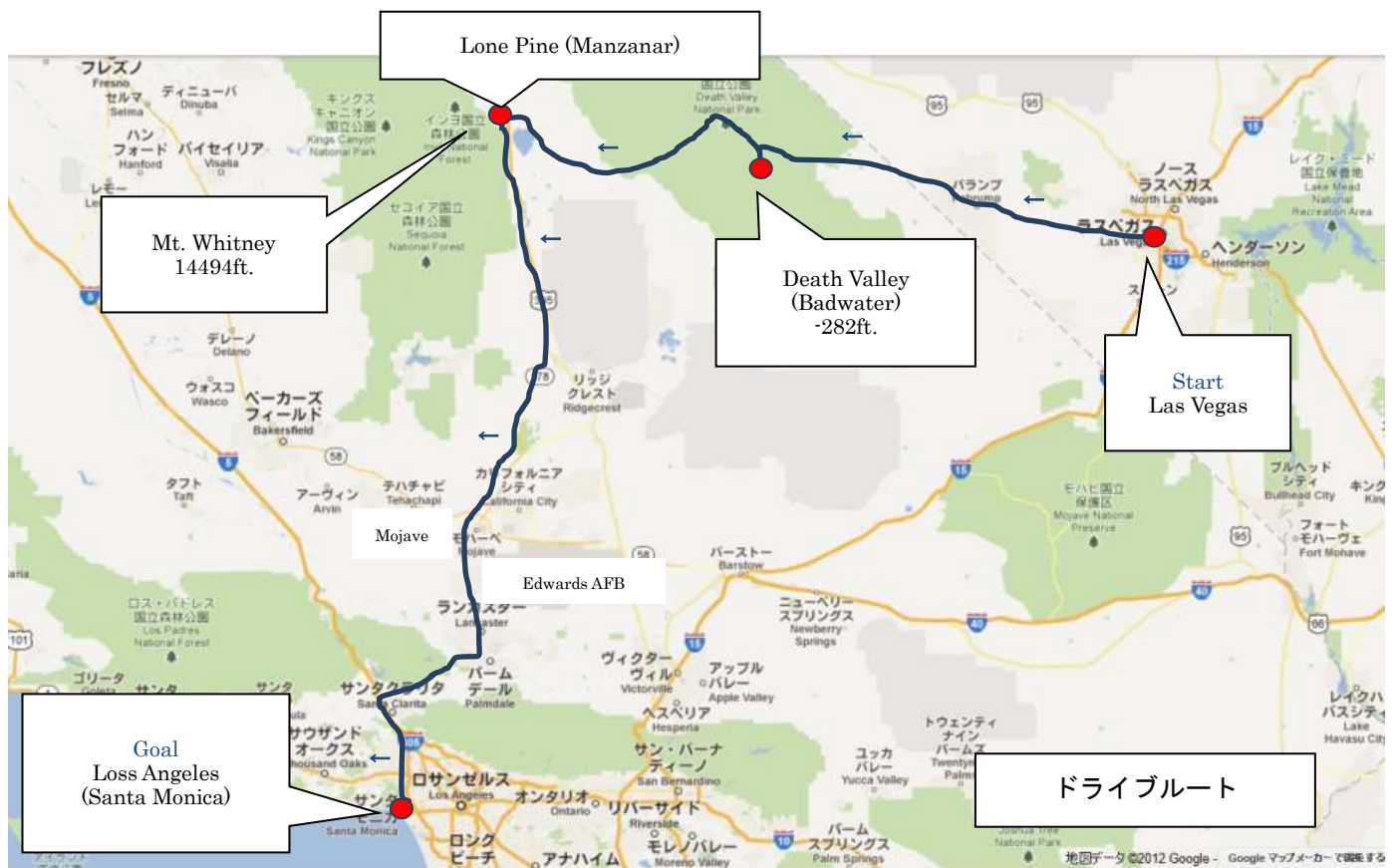


オハイオ通信 第4回

Fumihiko "Charlie" Maeda Jul,15,2012

●今回のラスベガス～ロスアンゼルス旅行の目的は、二つあります。一つはラスベガスに住んでいる知人(前回駐在時オハイオで知り合ったカミさんの琴仲間)を訪ねること、二つ目はアメリカ48州の一番低いところ(Death Valley)と高いところ(Mt. Whitney)に行くことでした。Death ValleyからMt. Whitneyは前回の駐在時に一人で出かけているのですが、カミさんともう一度と言うことで目的地に選びました。3月21日オハイオ発、22日ラスベガス滞在、23日ロスアンゼルスまでドライブ、24日オハイオに戻ると言う中2日間しかない旅程です。

●ラスベガスに着いた日の午後は市内観光です。午後になると当日のショーのチケットが安くなり(半額?ショーの評判次第ですが)、市内にあるチケットセンターで買うことができます。夜のショーまで、カジノを少し楽しみながら時間をつぶしました。



●では、ラスベガスで出かけた3カ所のアウトドアスポットを紹介します。

① Charleston 山 スキー場

西にある3千mクラスの山、ラスベガスとは反対側の北側の斜面にスキー場があります。ネバダ州は赤茶け荒涼とした土地と言うイメージなのですが、3月に緑と雪に囲まれた場所があるとは驚きでした。車で行けるので、賑わっていました。

② Charleston 山 ホースライド

スキー場に行く手前の山の麓に乗馬コースがあります。予約を入れて1時間半ほど乗ってきました。他のパーティ併せて15人ほどにガイドが3人付きます。取り立てて何かがあるわけでは無いのですが、空の下、テクテクと馬と道程を楽しんで来ました。

③ Red Rock Canyon

ラスベガスの西側、高い山々の手前に赤い岩山が見えます。これがRed Rockです。国土保全エリアになっていて、ゲートがあり入場が制限されています(3月は朝6時~夜7時, \$7/人)。車で岩山の下まで行き眺めると、ロープクライミングやボルダリングする人が目に入ります。易しいルートで頂まで行けるほか、ここには10kmぐらいまでのハイキングトレイルが19本あります。ここから眺めるラスベガスの夜景はすばらしそうです。



Charleston 山 スキー場



Red Rock Canyon



Hose Riding

●さて3日目、ラスベガスを後にしてロサンゼルスまでのロングドライブに入りました。Death Valley と Lone Pine (Mt. Whitney の麓の町) を経由して、目指すサンタモニカまで約9時間かかる予定です。●標高601mのラスベガスから自然の中を西へ、いくつかの町に出会いながら走ると3時間でデスバレー国立公園に入ります。デスバレーというと乾燥した死の谷というイメージですが、一帯は山あり荒野あり、海面下から1500m程度の峠までの登り下りあります。このハードな自然の色々な地形を見て回るハイキングトレイルの他、1920年代のスペイン系の邸宅 (Scotty's Castle) など見所はいくつかあります。また、塩底にゴルフコースがありました (グリーンがあるか不明)。

●デスバレーから再び1500m近い峠を越え下ると2時間そこそこでセラネバダ山脈の東側に着きます。Lone Pine という町があり、Mt. Whitney の登山口はこの町から車が入った所にあります (残念ながら3月では通行止めで登山口まで行けませんでした)。登山ルートに野営地はありますが人数制限があり、1997年に登ったときは山頂まで10時間半、下り6時間の日帰り山行でした。また、Lone Pine の北に第2次大戦中の日系人収容所 Manzanar 跡があります。当時の生活を展示する新しい施設が作られて、歴史を学ぶ姿勢が伺われます。

●後はひたすらロスアンゼルスを目指して南下します。飛行機で無着陸世界一周した Voyager の離着陸地である Mojave の町やスペースシャトルが着陸したエドワーズ空軍基地の横を通り、ロスの北に位置する保養地サンタモニカ海岸に夕方到着しました。ホテルにチェックイン後、サンタモニカ海岸に出かけます。思い思いに楽しむ人々で賑わっていました。最後には憧れのUS66の道標の前で記念撮影。次回はここからシカゴへ向け走ることになりますか?では今回の駐在生活はこれで終わりです。



2 蓮實淳夫会員から山の草花の俳句が寄せられました

○蓮實淳夫会員は、岳人としての経歴はもちろん、山岳写真や俳句にも造詣が深く、旧黒羽町に生を受けたこともあって芭蕉研究も長年続けておられる。すでに栃木支部でも、2011(平成23)年11月13日(日)には第5回秋季講演会の講師としてお招きをして、『おくのほそ道の山』の講題でご講演をいただいている。今回、蓮實会員から【日本山岳会栃木支部の活動では大変お世話になっております。支部通信に載せて良いかどうか迷いましたが、私の俳句をお送りします。『俳句界』という月刊誌から頼まれて載せたものです。題は「高嶺草(たかねぐさ)」です。】とのお手紙をいただき、俳句を寄せられましたので、掲載します。

○なお、第5回秋季講演会の案内の掲載した蓮實会員の略歴を、参考までに掲載します。

●蓮實淳夫氏

昭和15(1940)年、黒羽町(現大田原市)生まれ。宇都宮大学学芸学部卒業後教職に就き、昭和42(1967)年より栃木県高体連登山部に所属し、30年間高校山岳部の指導にあたる。この間、栃木県高体連登山部委員長を務め、中国崑崙山脈慕士山登山総隊長や全国高等学校登山大会登山隊長などを歴任。現在日本山岳会会員、HAT-J会員、日本山岳協会自然保護指導員、俳人協会会員、栃木県俳句作家協会会員、山暦俳句会同人。主な著書として『山嶺に光求めて』『嶺呂讃歌』『風の里水の里 足の向くまま 栃木の52山』、共著に『下野のおくのほそ道を歩く』などがある。

高嶺草

ヤクが踏み羊が喰みし高嶺草

陽の落ちてより綿菅の輝けり

黒百合の花に鎌尾根霧吹きし

山頂は瑠璃色の風九蓋草

下山路の夕陽ゆたかに峰桜

陽にあそび尽して冬の花蕨

2012年度の活動の足跡

2012(平成24)年春山山行

日時:2012年4月15日(日)
場所:八溝山系『花瓶山(はなかめやま)、692m』
参加者:山野井会長以下会員、並びに会員家族や友人等31名
行動概要
大田原市役所黒羽支所 9:10…花瓶沢土場
10:20…次郎ブナ 11:20…花瓶山 11:50…大倉尾根經由…向山 14:00…うつぼ沢出合 14:30…黒羽支所 15:40

- 春山山行は栃木県北東部、茨城県境にある八溝山系・花瓶山で行われた。なじみが薄い山だが、地元では春先のカタクリやイワウチワの群落で名の知れた山である。支部会員、支部外会員、会員家族等も含めて31名の大人数での山行となった。
- 山行にあたっては、和知誠さん(下野新聞社『栃木百名山ガイドブック』の「花瓶山」執筆者)に、事前情報の提供や、当日コース案内をしていただくなど、大変お世話になった。また和知さんが所属しておられる「黒羽山の会」にもお世話いただいた。
- 集合場所の大田原市役所黒羽支所駐車場で山野井会長から挨拶をいただき、何台かに分乗して出発。地元の蓮實会員の案内で、黒羽小学校・大雄寺(旧黒羽藩主大関氏の菩提寺)の満開の桜を車中から見学しつつ、うつぼ沢出合に向かう。しかし出合駐車場は、事前の情報通りに国有林の伐採中でスペースがなく、急遽、下山口に考えていた花瓶沢土場から登るルートに変更する。新たな下山口となるうつぼ沢出合林道ゲート脇に3台の車を残し、土場へ向かう。土場で準備体操をして出発。
- 花瓶沢沿いに登り、25分で稜線に出る。ブナの巨樹「次郎ブナ」を見に北上する。この稜線は通常ならカタクリの群落があるが、花はまだ早く、葉のみを楽しむ。かつて「太郎ブナ」「次郎ブナ」の2本の巨樹保護のために黒羽山の会が中心となって活動をしていたが、「太郎ブナ」が寿命が尽き、今では「次郎ブナ」のみとなった。このあたりでは珍しいブナの巨木である。来た道に戻り、20分で目的地「花瓶山」に着く。山頂からは茨城県側の山の眺望が澄んだ空に映えていた。昼食後、大倉尾根をうつぼ沢出合に向かう。山野井会長は猿山・仙石会員とともに山頂から登山口の土場へ下山。
- 大倉尾根は結構時間がかかり、向山経由で2時間以上かかってうつぼ沢出合に着いた。下山地近くでイワウチワの群落に出会った。計画変更が奏功した。車を土場からおろし、再び全員を乗せて黒羽支所に

向かう。15:40山野井会長の挨拶をいただき解散。



倒壊した「太郎ブナ」を
ナデナデする美女!?



大倉尾根のカタクリの群落



うつぼ沢出合手前のイワウチワの群落

第1回役員会・事業委員会

日時：2012年4月15日(日)16:00～
場所：大田原市役所黒羽支所駐車場
参加者：役員16名中11名

○春山下山後、黒羽支所の軒先をお借りして開催。新年会・冬山山行報告、三支部合同懇談会の報告、親子登山教室の進捗状況報告があり、その後、支部総会の議案・支部行事担当者について協議した。



山野井会長



渡邊事務局長

第2回役員会・事業委員会

日時：2012年6月2日(土)14:30～15:30
場所：宇都宮市『コンセーレ』タイムズスクエア
参加者：役員17名中13名

○総会を前にして役割分担等の直前準備をした。さらに事業委員会の行事担当者、夏の山岳映画の夕べ、親子登山教室等について協議した。



会計担当：石澤委員



坂口監事

総会、並びに懇親会

日時：2012年6月2日(土)16:00～19:00
場所：宇都宮市『コンセーレ』3F研修室
参加者：総会30名、懇親会27名

○神島委員の進行で始まり、山野井支部長が「JACが公益財団法人になって最初の総会。これからは公益性が問われていく」と挨拶された。仙石会員を議長に選び議事審議に入る。平成23年度事業報告(渡邊事務局長)・同決算報告(石澤委員)及び監査報告(坂口監事)・平成24年度事業計画案(渡邊事務局長)・同予算案(石澤委員)が提案され、全議案ともに全会一致で承認された。支部決算も今後は本部との連結決算となる。また渡邊事務局長より「公益財団法人日本山岳会栃木支部規約」について、すでに4月1日に本部が公益財団法人化され、それに伴って栃木支部規約も制定されており、事後承認となるとの説明があり、これも全会一致で承認された。支部役員・委員会委員もほぼ再任されたが、自然保護委員長が蓮實会員から石澤会員に変わった。その他として、会報4号5号の合併号が配布され、支部会員が1名増える予定であることが報告された。

○会場を2Fバンケットホールに移して、17:00より懇親会となる。進行は石澤委員が行う。会員27名が参加、会員のスピーチ等も差し挟みながら終始なごやかに歓談が続いた。

○総会内容の詳細は、後述する総会記事を参照してください。



総会風景：皆さん熱心に資料をご覧になっています



懇親会での一コマ

JAC 埼玉支部との合同登山

日 時：2012年6月9日(土)～10日(日)
場 所：高山、袈裟丸山
参加者：栃木支部(坂口、森、小島、上田、石澤)
埼玉支部(大久保支部長他14名)

行動概要：

6/9(土)：銀山平 9:20=かじか荘発 10:30=竜頭の滝 P 11:20～12:10…高山 13:50～14:00…竜頭の滝 P 15:10=足尾銅山跡・三川合流ダム見学=サンレイク草木 17:00、懇親会 18:30～22:00

6/10(日)：宿舎発 7:30=登山口 P 8:10、8:20 発…賽の河原 9:35…避難小屋 11:00…袈裟丸山頂 12:10～40…登山口 P 15:40、解散

●6月9日(土)

○本支部は9:20 銀山平着。駐車場で埼玉支部のメンバーの到着を待つ。埼玉支部会員は10:10 到着。国民宿舎かじか荘のロビーで今後の行動を協議。当初庚申山登山の予定だったが降雨や時間を考えて、高山登山に変更。乗用車4台で10:30 かじか荘出発。11:20 竜頭の滝駐車場着。雨小降りになる。駐車場で昼食後12:10 分出发。小島委員が植物や高山について解説。和気藹々雨も気にならず、途中シロヤシオ、トウゴクミツバツツジ、石楠花の花々を楽しみながら登山する。途中2回小休憩し高山山頂に13:50 到着。時間帯が遅いので登山者には誰も会わず静かな登山を楽しめた。14:00 頂上発、15:10 駐車場着。

○埼玉支部会員から足尾銅山跡見学要望があり、足尾銅山跡及び三川合流ダムを見学。17:00 本日の宿であるサンレイク草木に到着。早速湯に入り汗を流す。18:30 から懇親会になる。初対面の方ばかりであったが、一日一緒に登山したこともあり話が弾み楽しいひと時を過ごすことが出来た。その後20:40 から2次会を行う。話が尽きなかったが明日の登山もあり、22:00 頃解散。

●6月10日(日)

○7:00 朝食、7:30 出発。今日も雨。しかし出発する頃になると明るくなり雨があがる。8:10 登山口駐車場到着。天気が悪く登山者が少ないと思っていたがマイクロバスや乗用車で駐車場は一杯。準備体操をして8:20 発。今日もシロヤシオ、トウゴクミツバツツジのトンネルの中、花をめでながらの登山。2回の小休止の後賽の河原に9:35 到着。小丸山の巻き道を通り小丸山と袈裟丸山の鞍部の避難小屋に11:00 到着。トラバースルートの途中で雨が降り出し急遽雨具を着ける。この後は雨が降

ったり止んだりの天気になる。鞍部から1回の小休止で袈裟丸山頂上12:10 着。ここで昼食にする。12:40 下山開始。避難小屋のあるある鞍部で小休止。さらに小丸山にて小休止。埼玉支部の会員の中にはスケッチクラブに所属している方がおり、小休止の間に鋸岳のスケッチを完了した方がいたのには驚いた。賽の河原手前で小休止後、15:40 駐車場に到着。駐車場で解散の挨拶をした後、16:00 埼玉支部の方に見送られ帰途につく。日光のヤシオの湯で汗を流した後、17:30 消防署前の駐車場で栃木支部も解散する。

●埼玉支部との合同登山を終了して

○今回は宿の手配からすべて埼玉支部の富樫事務局長にお世話になった。埼玉支部会員は150名ほどおり、本支部の3倍近い会員がいる。会員が多いせいか「山行・集会委員会」「広報委員会」「自然保護委員会」「安全登山委員会」「社会登山委員会」「総務委員会」の専門委員会を組織し活動しているようだ。また埼玉50山を独自に選定し、月1回の山行をしているとのことであった。我々も会員を増やし組織を活性化できればと思った。天気こそ悪かったものの楽しい登山をすることができた。埼玉の富樫事務局長、大久保支部長、栃木のまとめ役の小島委員には大変お世話になりました。



登山道各所で出会った満開のトウゴクミツバツツジ



袈装丸山山頂にて栃木支部のメンバー



袈装丸山山頂にて両支部のメンバー

日光清掃登山(栃木県岳連との共催) 【山の日制定プロジェクト】

日時：2012年6月30日(土)、7月1日(日)

場所：日光湯元キャンプ場、前白根山・五色山

参加者：前夜祭…会員2名、岳連参加者多数

清掃登山…会員5名、一般6名

【全体では200名超】

行動概要：6/30(土)17:00～講演会、前夜祭

7/1(日)開会式 7:30、湯元発 8:00…外山尾根

取付 8:40…前白根山 12:00…五色山 13:00

…湯元 15:30、解散



○梅雨のないといわれる奥日光。評判どおりに雨に降られず、湯元キャンプ場で恒例の「日光の自然を考える集い」と銘打った講演会が実施される。講師は日光湯元ビジターセンター所長の辻岡幹夫氏、静かな奥日光の夕方一時、奥日光の自然の素晴らしさと、自然を守る大切さを実感する講演内容でした。翌日の清掃登山に結びつく、大変いいお話をお聞きすることができた。その後、栃木県山岳連盟自然保護委員会主催の前夜祭が行われた。会場のキャンプ場の調理場では、多くの料理や飲み物が持ち寄られ、本支部会員と、山岳連盟所属の会員相互の交流が図られました。

○7/1(日)7:30より湯元のビジターセンター前広場での開会行事。県山岳連盟会長の喜内氏の挨拶、共催団体として日本山岳会栃木支部からは麦倉会員が山の制定プロジェクトの説明をした。

○開会行事終了後、各会に分かれての活動となり、本支部は、前白根山と五色山コースに向けて、湯元を出発。天候の崩れが心配される中、湯元スキー場をつめて、外山尾根の取り付きで休憩、そこから急登を気合いを入れて登る。登山道脇にはシャクナゲやコイワカガミが咲き、稜線に出るとミネザクラが急登の疲れを癒してくれる。登山道周辺は最近の登山者のマナー向上を実感できるくらいゴミは少なく、回収されるゴミの多くはかなり以前に地中に埋められたものが大半であった。

○樹林帯を抜けて、残雪を見ながら進むと、ちょうど

正午になる頃に前白根山の山頂に着く。雲が多いものの、雲の切れ間から時折奥白根が顔を見せるロケーションを楽しみながら、昼食休憩を取る。休憩後、五色山山頂につくと、眼下に五色沼、その上には大きくそびえ立つ本県最高峰の奥白根山がはっきり姿を現す。小雨が降り始め、見事な景色に後ろ髪を引かれながら下山開始。国境平を経由して、一気に中ッ曾根尾根を下る。15:30全員無事に湯元に帰着、回収したゴミを分別して出して、清掃登山の全日程を終了した。

○湯元温泉で温泉を堪能し、程よい疲労感と、環境保全活動をした満足感に心を満たしながら、私たちの下山に合わせて雨脚を強くした雨の中を、参加者それぞれ帰途につく。お疲れ様でした。

第3回役員会・事業委員会

日時：2012年7月7日(土)14:30～15:40

場所：コンセーレ内タイムズスクエア

参加者：役員17名中12名

○支部総会、親子登山教室、埼玉支部との合同山行清掃登山、支部長会議、JAC総会等の報告があった。本日の行事(夏の山岳映画の夕べ)の役割分担、夏山山行、那須岳クリーンキャンペーン、秋山山行、ヒマラヤの集い、秋季講演会等について協議した。

第5回夏の山岳映画の夕べ (本支部とコンセーレとの共催事業)

日時：2012年7月7日(土)16:00～18:00

場所：宇都宮市『コンセーレ』アイリスホール

映画：ニュース映画を数本上映

講演：羽田栄治氏(前日本山岳会資料映像委員長)

『「ニュース映画」に見る戦後の山と世相』

参加者：支部会員20名、一般20名、合計約40名

○支部恒例の「第5回夏の山岳映画の夕べ」が会場であるコンセーレとの共催で、講師の羽田栄治氏をお招きして開催された。参加者は、支部会員20名、一般20名と予想に比べ少ない参加者であった。

○第5回となる今回は、『「ニュース映画」に見る戦後の山と世相』と題し、羽田栄治氏からニュースカメラマンとして携わった現場での状況説明、苦労話などニュース映画の裏側のお話を聞いた、映画の合間でのカメラマンとしての説明が一層臨場感を盛り上げていた。

○映画は、1960年9月製作の谷川岳・衝立岩の遭難者の自衛隊による銃撃での遺体収容や、伊勢湾台風1年後などが上映された。この中でいくつかの山の遭難報道が当時の社会の話題、災害などと共に紹介された。

○山の遭難報道では、1963年1月北アルプス薬師岳

での愛知大学生 13 人の遭難、1969 年 1 月 剣岳での悪天候での大量の孤立騒ぎなど記憶に残る記録が映し出された。遭難救助に向かう仲間の姿は今も変わらないが、当時の冬山装備など、時代を感じさせる映像も見られた。ニュース映画は、事件等の事実を報道するだけでなく、その当時の世相、文化なども残るため貴重な記録である。

- 谷川岳の銃撃による遺体収容では、跳ね返る銃弾を避けながら、35 ミリカメラの重さ、フィルムが 1 分しかもたない中での撮影の厳しさ、現在の機材と違った難しさ、やり直しのきかない緊張感など当時の思い出なども語られた。
- 主作品の合間に映されるニュース映画は、ナレーターの解説が独特の雰囲気を出していた。個人的なこと【仙石会員】ではあるが、かつて、独特の語り口のニュース映画解説で名をはせた竹脇正作(俳優 竹脇無我の父)の住いが父の実家の隣だったということ、父から聞いたことを思い出した。
- 映画会の後は、懇親会に移り、羽田講師を囲んで映画にまつわる話など、会員の懇親を深めた。今回の映画は参加者としては少なかったが、記憶に残るニュースをあらためて思い出しながら、鑑賞できたのではないと思う。

親子登山教室

日 時：2012 年 7 月 28 日(土)～29 日(日)
 場 所：学習院日光光徳小屋、山王峠、太郎山
 参加者：主催者…会員など 8 名
 参加者…13 名の親子
 行動概要：
 7/28(土)：
 光徳 P (受付)9:20…光徳小屋で開会式 10:30…
 昼食後ハイキングに出発 12:00…山王峠 13:25
 …光徳小屋 14:40…夕べの集い 15:40～16:00…
 夕食 19:00…星座観察会 20:30…就寝 22:00
 7/29(日)
 起床 5:00…朝食 6:10…出発 6:50＝登山口 7:15
 …お花畑 10:10…太郎山頂 10:25～10:55…登山
 口 13:55＝光徳 P 14:15、閉会式後解散 14:30

- 今回は初めての行事なので、すでに実施報告書は会員に配布済みであるが、主なところを再掲する。
- 実施要項
 - 1 主旨：美しく雄大な自然に触れながら、親子の絆を深め、他人との協働と太郎山登山による自然体験を通して、心身ともに逞しく自立する青少年の人格育成の一助とする。
 - 2 主催：公益社団法人日本山岳会栃木支部
 - 3 後援：栃木県教育委員会・日光市教育委員会・栃木県山岳連盟・学習院大学山桜会
 - 4 期日：平成 24 年 7 月 28 日(土)～29 日(日)

5 場所：学習院日光光徳小屋及び奥日光の山城

○行動概要：7 月 28 日(土) 天気晴れ

9:20 より光徳駐車場にて受付を開始する。全員受付を完了し、余分な荷物を車に載せ予定より早く 10:00 前に光徳小屋に向け移動する。荷物を整理した後、10:30 より光徳小屋で開会行事・オリエンテーションを行う。主催者の山野井支部長の挨拶、続いて賛田学習院大学山桜会会長の挨拶の後、上田実行委員長の日程説明、管理人より山小屋利用上の注意があり開会行事を終了する。引き続き講師、スタッフの紹介の後、参加者の自己紹介を行う。地図・コンパスを参加者に配布し、コンパスの使用法及び読図について簡単な講義を行う。最後に本日の山王峠ハイキングの注意をして開会行事・オリエンテーションを 11:30 に終了する。各自小屋周辺で昼食後、記念写真を撮り 12:00 山王峠ハイキングに出発。

整備されたコースを全員元気に歩く。途中で合う人は少なかったが、山王峠付近で、林間学校の小学生の集団に出会う。所要所で富永講師より植物・きのこ・ダケカンバ等の講話を聴く。植物の種類が少なかったのは残念であったが、子供たちは目ざとくいろいろな植物を見つけていた。2 回小休止の後、全員元気に 13:25 山王峠に到着。記念写真を撮ったり、植物や周りの景色を楽しんだりコンパスの使用法や読図をして、13:40 往路を引き返す。光徳小屋には 14:40 到着。予定より一時間近く早く到着したので、各自荷物の整理をしたり前の小川で笹舟を作ったりして自由時間を楽しんでいた。

15:40 より小屋の中で夕べの集いを行う。山野井支部長の挨拶後、参加した子供たち全員が本日の感想を述べ、和気藹々のうちに 16:00 夕べの集いを終了。その後すぐに子供たちは、上田実行委員長の指導のもと全員で夕食の準備をする。子供たちは楽しみながらも一生懸命夕食を準備していた。包丁捌きなどぎこちないところはあったが、家庭では見られない光景である。子供たちの頑張りでも美味しい夕食が準備出来た。この間大人は小屋のベランダで、ミーティングを開く。いろいろな話題が出て盛り上がったものになった。全員で夕食をとり 19:30 に夕食終了となる。その後夕食の後片付け及び明日の昼食のおにぎり作りをする。

小屋到着後夕立があり星の観察が出来るかどうか心配したが、20:00 頃青空が出てきたので 20:30 より小屋の裏の広場にブルーシートを敷き、富永講師の指導で星座の観察会をする。しかし雲が出てきてしまい 21:00 に観察会を終了する。明日の登山の準備をして 22:00 就寝する。

○行動概要：7 月 29 日(日) 天気晴れ時々曇り

5:00 に起床し子供たちは朝食の用意。その間、保護者が部屋の掃除後片付けをする。朝食を 6:30 に終了し、本日の登山注意及び遅れて合流した渡

邊事務局長および麦倉委員の紹介をする。6:50 配車計画に従い各自荷物を載せ4台の車に分乗し、山野井・上田両氏の見送りを受けて出発する。裏男体林道は途中通行止めであったが、太郎山の登山口までは行くことができた。登山口で準備体操をして7:15 登山を開始する。

本日も途中富永講師の講話を聴きながらの登山だ。最初は歩きやすい登山道であったが、次第にガレ場が出てきてロープや鎖を掴んでの登りとなる。小学低学年の子供には大変な登りだが、親のサポート受けながら元気に登っていく。男体山や大真名子山・小真名子山さらには戦場ヶ原の景色は疲れを癒してくれる。登るに従い気温も下がり風もさわやかになり元気が出る。途中三回の小休止の後、急登を登るとお花畑である。鹿の食害で花はあまりない。お花畑 10:10 着。太郎山頂 10:25。ひとりの落伍者もなく全員無事登頂することが出来た。山頂で昼食をとる。自分で作ったお

にぎりは大きさこそまちまちであるが美味しかった。記念写真を撮り 10:55 下山を開始する。ガスがかかり山頂からの展望が利かなかったのは残念。往路を戻り岩場の通過に苦労しながらも途中二回の小休止で登山口に 13:55 到着。整理運動をした後、車に分乗して光徳駐車場に 14 時 15 到着。

光徳駐車場で、閉会行事をした後 14:30 解散する。天候にも恵まれ予定していたプログラムはほぼ予定通りに終了することが出来た。一人のけが人もなく無事終了できた。子供たちの頑張りや保護者の皆様のご協力に感謝したい。今回の登山が子供たちにとって夏休みの良い思い出になるとともに、これを機会にいろいろな山にチャレンジすることを期待したい。学習院大学山小屋の使用にご尽力頂いた山桜会会長贄田氏をはじめ今回お世話になりました関係各位に感謝する。



学習院日光光徳小屋前にて記念撮影



スタッフの猿山・上田会員



みんなで夕食の準備



ハイキングに出発



ブルーシートに寝転んで星座観察会



夏山山行・懇親会

日時：2012年8月25日(土)～26日(日)

場所：奥日光・赤岩滝、奥鬼怒温泉郷 加仁湯、湯沢噴泉塔、鬼怒沼

参加者：会員など男13名、女8名の計21名

行動概要：

8/25(土)：

○Aコース【湯沢峠から加仁湯】(12名)

森、渡邊、仙石、関根、吉田、長、三井吉由江、上田、藤田礼子、猿山、猿山夫人・息女

女夫淵P 8:30＝(山王林道)＝丸沼温泉登山口
10:20、10:30発…1674m付近で昼食11:25～40…湯沢峠
12:55…オオソロシ沢 14:50…ヒナタオソロシの滝
15:10…加仁湯 15:50

○Bコース【湯沢噴泉塔往復】(5名)

坂口、石澤、石澤みどり、山本、仲畠

女夫淵P 8:10＝入口 8:30…湯沢噴泉塔(11:45～12:25)
…入口 16:40＝女夫淵＝加仁湯 17:20

○Cコース【女夫淵から加仁湯へ】(4名)

山野井、前田、乾、中村

女夫淵P 13:10…鬼怒川散策…加仁湯 15:30

8/26(日)：朝食7:00

○Dコース【赤岩滝往復】(15名)

森、渡邊、前田、仙石、関根、吉田、上田、藤田、猿山、猿山夫人・息女、石澤、石澤みどり、山本、仲畠

加仁湯 8:00＝女夫淵 8:20＝山王林道＝赤沼P＝西ノ湖入口
9:40…赤岩滝(11:30～12:05)…西ノ湖入口
13:25、13:59発＝赤沼 14:20＝丸沼P、解散

○Eコース【加仁湯から女夫淵】(6名)

山野井、坂口、乾、中村、長、三井

加仁湯 8:30…女夫淵 10:30＝鬼怒川温泉駅にて解散
11:30

●8/25(土)：Aコース【湯沢峠班】

○前日、湯坂峠(中三依)をこえて湯西川沿いを下り、女夫淵温泉に泊まった三井(11540)、藤田(9648)、長、上田の4人が、他のメンバーと女夫淵Pで合流し、丸沼温泉に向かう。丸沼温泉口で「ストップ」がかかった。「今日は入れません。ここは私有地です」の一点張りで、先着の関根、森組も立ち往生していた。猿山ファミリーの車も着いた。夏は沼田でボランティアをしてらっしゃる吉田氏の機転でスキー場の駐車場まで行き、そこからシャトルバスに乗って丸沼温泉まで行くことになる。

今日はXTERRA(湖を泳いで、野山をマウンテンバイクで走り、原生林を走る)オフロードのトライアスロンの競技の日であり、森と湖に囲まれた広い駐車場はイベント会場になって賑わっていた。

○丸沼温泉 10:30 発、樹林の間から「あれが四郎沢」と説明あり。曇った空の下、樹林帯を登り始める。吉田氏のオオシラビソ、シラビソ、モミの木の判別の仕方を聞きながら登る。1674m付近でちょっと早

い昼食(11:25～40)。1820m付近(12:20～30)休憩。目的の湯沢峠(1970m)着(12:55～13:12)。燕巣山への道はやぶの中で、もう廃道に近く標識も朽ちて解説しようもないほど消えていた。ポツ！遠くで雷様の声、空はすっかり曇り、またポツツ、雨具をつける。三井さんが上下の雨具をきちっとつけたが、ほとんどの人がそれほどでもないだろうと思ったのか、上着だけ着用した。出発して間もなく本降りになった。雨具をつけるときは無精がらずに完全武装に限ると思った。根名草沢(13:50)、この沢をどーんと降りていけば、鬼怒川の本流であるが道は尾根を巻き、またそのつぎも尾根を巻き、オオソロシ沢(14:50～15:00)通過、雨の道を下ばかり見て歩いていたので、展望台に立って下を見るも何も見えない、ふっと真正面に堂々とドーンと見えるではないか！！あ、あ、アナオソロシ！ヒナタオソロシの滝(15:10)

○雨はやむ気配なくしっかりと降り、だれも何も言わず黙々を歩く。鬼怒沼への登山分岐(15:20)通過、雨が左足に沁みてきたかと思ったら、右足にもじわじわ沁みてきた。道には雨が沢のように勢よく流れ、日光沢温泉着 15:40。根名草山を降りてきたときにはあそこの水をあまりにも美味しくして何杯も何杯も飲んだが、今日はあまり欲しくないし、美味しくない。加仁湯着 15:50。金精峠から温泉岳、根名草山のすそ野をぐるりと回ったことになる。根名草山の大きさに改めて感じ入った。



根名草山遠景

●8/25(土)：Bコース【湯沢噴泉塔班】

○女夫淵駐車場集合 8:10。湯沢噴泉塔歩道入口駐車場へ車で移動。メンバーは、昔別ルートで行ったことがある坂口、初めての山本、石澤、今年になり本格的に登山を始めた石澤みどり、仲畠の5人。8:30 鬼怒川に架かる湯沢檀橋を渡り、湯沢左岸沿いに高巻いたり、沢に近づいたりしている山道に行く。湯沢噴泉塔までは4.9kmの表示で、3kmくらい進んだらうか、10:00に最初の渡渉ポイント着。ここで、登山靴から濡れてもいい靴に履き替え、履いて

いた登山靴をデポする。簡易橋を横目に見、目印のテープがあっちにもこっちにもあり、どこを渡るうか、皆でルートファインディングしながら進む。緑濃い樹林帯の中を歩いてきた汗だくの身体には冷たい沢の水が気持ちよく、ジャボジャボと渡渉する。(10回以上)

○標識の距離がカウントダウンされるころ、数か所で温泉が湧いていて、目的地への期待が高まる。残り300mの所から最後の難所高巻き道を行くと、鍾乳洞のような色をしたお湯の流れと湯気、湯沢の清流と、湯沢噴泉塔が現れた(11:45)。ここでしか見られない景色を堪能しながら、昼食をとり、12:25発、来た道に戻った。

○途中雷雨となり、レインウェアの上着を着る。雨はだんだん激しくなり、水量が増えていることを気にしながら、渡渉が終わるポイントへ急ぐ。デポした登山靴が無事かハラハラしたが、無事履き替え、雨具のズボンも着用し、ひと段落。隊がバラけたので、小止みになるまで停滞。標準コースタイムより1時間遅れで16:30湯沢檀橋を渡る頃は、すっかり雨が上がり青空が戻る。17:00加仁湯の送迎バスに乗り、加仁湯17:20着。18:00から懇親会の予定だったが、時間を繰り下げ、ゆっくり温泉で温まる。



加仁湯玄関前で参加者
全員が記念撮影



●8/26(日) : Dコース【赤岩滝班】

○2日目は7:00から朝食。宿の前で記念写真を撮った後、D班とE班に分かれる。D班は、加仁湯の送迎バスに乗り女夫淵駐車場着8:20。山王峠を車で走り、車をデポした奥日光へ戻る。赤沼駐車場から、9:20低公害バスに乗り換え西ノ湖入口9:40。ここからカラマツ林の林道に行く。Y字路があり、赤岩滝へ4.3kmの標識に沿って進む。しばらく柳沢川に沿った林道を3キロ1時間ほど歩き、休憩ポイントの水場へ。ここからは沢を遡行する。登山靴にスパッツを着け、飛び石や瞬間水で、足元を濡らさないよう気をつけながら、渡渉を4回。道標やペンキマーク、ケルンも積まれた道は歩き易く、シロヨメナやアザミ、ネジバナ、ミヤマアキノキリンソウが咲き、何より涼しい風が心地よい。赤岩滝11:30到着。100mの落差、4段瀑になっており、水量も十分で見応えがある。

○昼食後、12:05帰途に着く。気になる雷雲ができたので先を急ぎ、1時間20分でバス停へ戻る。13:24予定の低公害バスが、目の前を走り去る。バスの時刻を調べて行けばと思っても後の祭り、次のバスは25分後。木陰で残ったおやつを頬張りながら、来年はどのコースにしようかと、おしゃべりしているうちにバスが来る。14:20赤沼駐車場に戻り、解散。丸沼にデポした車を回収する頃には、雷雨となった。



落差100m、4段瀑の赤岩滝

第4回役員会・事業委員会

日時：2012年8月25日(土)18:00～

場所：夏山山行時、加仁湯

参加者：役員17名中10名

- 夏山山行参加者が全員無事に集合し、懇親会前に実施した。第5回夏の山岳映画の夕べ、親子登山教室の報告があった。また全国支部懇談会に6名、那須クリーンキャンペーンに13名の参加が予定されている。秋季講演会、ヒマラヤの集い、新年会・冬山山行、三支部合同懇談会について協議した。



第35回那須クリーンキャンペーン & 清掃登山(栃木県山岳連盟と共

日時：2012年9月1日(土)、2日(日)

場所：那須、峠の茶屋園地、茶臼岳周辺

- 9月1日(土)の前夜祭に3名、2日(日)の清掃登山に13名の会員の参加が予定されていたが、雨天のため中止となった。

秋山山行

日時：2012年11月4日(日)

場所：七ヶ岳(1636m)

参加者：会員10名、他2名の12名

森、坂口、前田、石澤、上田、中村、長、北見、猿山、鈴木、藤田(東京)、石澤令子

行動概要 11/4(日)

会津高原尾瀬口 9:00＝羽塩登山口 10:00…七ヶ岳 13:25～55…スキー場上部着 14:45…回送した車のある地点 15:20＝登山口 16:50＝白樺の湯 16:50～17:15、解散

- 石澤車(森、石澤令同乗)が7:20に集合場所『道の駅たじま』に到着。猿山会員はすでに到着。お互

いに道路が空いていて早く到着した。前田氏が到着。『道の駅たじま』から高杖登山口まで猿山、前田両氏に帰りの車の配送をお願いする。7:40『道の駅たじま』を前田、猿山両氏出発。上田車(藤田同乗)、最後に北見車(坂口、鈴木同乗)が8:30に到着。石澤車、北見車2台で『会津高原尾瀬口』に向かう。猿山、前田両氏と合流。8:53 予定通り長、中村両氏が到着。9:00に3台の車に分乗し登山口向かう。天気も良く紅葉が素晴らしい。

- 国道から橋を渡ったところで予定していた道路が通れず、遠回りであるがうさぎの森経由で狭い林道を行く。10:00 羽塩登山口着。30分ほど紅葉の林の中を進むと沢筋の登山道になる。落ち葉が多くまた岩が濡れており滑りやすくルートファインディングに苦労する。沢は名前の通り滑沢で綺麗である。沢を登っていくと1200m付近からは、紅葉も終わり昨日降った雪が出てくる。ここからはかなり急峻な登りになる。また岩場も出てくる。ロープを頼りに登るが雪が付いていて登りづらい。

- 11:50 沢から尾根に出る。周りの景色が見え眼下は赤・黄の紅葉で素晴らしい眺めである。13:00 稜線に出る。ここからは七ヶ岳まですぐである。頂上か



らは日光連山、高原山、那須連山、燧岳、会津駒等360度のパノラマを楽しむことが出来た。山頂に13:25 全員到着し、昼食後記念写真を撮る。七ヶ岳は三百名山のひとつであり、頂上には一等三角点がある。山頂からの展望を楽しみ 13:55 下山を開始。尾根筋を下りスキー場上部到着 14:45。スキー場上部まで雪がありすべりやすい。黄色に紅葉した唐松を眺めながらスキー場を下る。15:20 回送した車の地点到着。前田車(猿山・北見・石澤同乗)で登山口に向かう。その間白樺の湯で汗を流し待っていてもらう。16:50 登山口から白樺の湯に戻りお湯に浸かり、17:15 解散する。予定よりだいぶ遅くなってしまったが、変化に富んだコースであり楽しい登山であった。



第5回役員会・事業委員会

日時：2012年11月10日(土)14:30~15:30

場所：コンセーレ内タイムズスクエア

参加者：役員16名中10名

○山野井支部長の挨拶の後、秋山山行報告、年次晩餐会の案内、新入会員紹介【深谷篤志】があった。秋季講演会の役割分担、ヒマラヤの集い、新年会・冬山山行、三支部合同懇談会について協議した。

第6回秋季講演会

(本支部とコンセーレとの共催事業)

日時：2012年11月10日(土)15:00~17:00

場所：宇都宮市『コンセーレ』1階大ホールA

参加者：会員23名、一般25名、計48名

講師：池田正夫氏

演題：「日光修験 三峯五禅頂の道」

○講師の池田正夫氏は小学校長退職後に山行を始められ、1999(平成11)年から丸6年をかけて日光修験三峯五禅頂の全行程を六巡され、2009(平成21)年10月に『全踏査 日光修験三峯五禅頂の道』を刊行されている。山野井支部長の挨拶に続いて、講師の講演をいただいた。以下、講演の概略を紹介したい。



講師：池田正夫氏



懇親会風景

○六巡した中で、一巡目は勝道上人一行が日光まで来た道筋を歩き、鳴虫山まで辿り着いた。その後は大真名子山・小真名子山・太郎山・女峰山・男体山を始めて登った。但しこの五山は点として登ったにすぎない。

○二巡目は夏峯の挑戦を始めた。鳴虫山→薬師岳→細尾峠→茶の木平→中禅寺湖→大和田沢→黒檜岳→千手ヶ浜→宿堂坊山→錫ヶ岳→白根山→温泉ヶ岳→金田峠→於呂俱羅山→五山のコースを、4月から11月にかけて一回りした。

○冬峯は冬に歩かねばならないと思い立ち、三巡目からは文書にある通りの日程、つまり冬峯は冬に歩くことを前提にして歩いた。二巡目につけた赤テープが大いに役立ったようだ。昔は修験者が通る道は「雪踏人足(ゆきふみにんそく)」がいて道を踏み固めてくれたそうだが、自力で歩くのでかなり時間がかかった。冬季は熊は出ないが、ライフル狩猟者が一番怖かったようだ。

○さらに、記録には残っているものの、現在ではその場所がわからないなってしまった幾つかのポイントを探し出す苦勞についても話された。「行者ノ宿跡」「男嶽宿跡」「錫ヶ岳の石躰」「温泉ヶ岳の噴気孔」「寒沢宿」「大多和宿の護摩壇」「水呑の石柱」「寂光石」などである。

○結果的には6年間に750回を越す単独山行に出かけたが、山行のたびにわからないところが出てくるので、回数がいつの間にか増えてしまった。これを筆録しようと思いついたのは四巡目以降のことであり、丸3年かかってようやくしあげたのが『日光修験三峯五禅頂の道』である。

○なお、講演会終了後に、「タイムズスクエア」にて、講師を囲んで懇親会を行った。会員が19名参加して、講師を囲みながら講演の話で盛り上がった。



講演会風景



第4回「ヒマラヤの集い」講演会 (本支部とコンセーレとの共催事業)

日 時：2012年12月8日(土)15:00~17:05
 場 所：宇都宮市『コンセーレ』
 講師：増本亮氏(クライミングファイト)
 演 題：「ヒマラヤ アルパインクライミング」
 参加者：本支部会員22名、一般33名、計55名
 懇親会参加者22名

- 今回もコンセーレとの共催で、新聞等で告知し、会員以外の方々も無料で参加できる本会の社会貢献事業として実施した。
- 同人クライミングファイトの増本亮氏を講師にお招きし「ヒマラヤ アルパインクライミング」というタイトルで、講演会を実施した。山野井武夫会長の挨拶、渡邊雄二事務局長によるの講師紹介後、素晴らしい写真を交えて中国ミニアコンガ山群のダッドメイン東壁(6380m)初登攀の報告を伺った。次には西ネパール・アピ峰南壁の新ルート開拓の貴重なお話を聴かせて頂いた。チャーターしたトラックではなくローカルバスとロバで装備を運び、現地でポーターを雇った。悪天候と困難なルートのため、約5500mで敗退となってしまった。ポーターの費用などについての質問が多数出た。坂口三郎氏の謝辞で、講演会が閉じられた。
- 「ヒマラヤの集い」終了後、支部の忘年会を兼ね講師の増本亮氏を囲み懇親会を開催された。出席者は22名であった。会員以外でも、県内で活躍する山岳関係の方々3名がゲストとして参加した。クライミングの話で盛り上がり、和やかな山の集まりとなった。今後も、このような集まりを続けて行きたいと思う。



講師：増本亮氏

新年会・冬山山行(足利)

日 時：2013年1月12日(土)~13日(日)
 場 所：大坊山・大小山
 宿 舎：足利市 鹿島園温泉
 参加者：足利学校9名、新年会13名
 宿泊11名、冬山山行15名
 山野井、森、小島、渡邊、坂口、牛窪、前田、長、石澤、上田、仙石、中村、関根、石井、鈴木、神長
 1/12(土)：開会行事 13:15~30=足利学校見学
 13:50~15:15=鹿島園 15:20…役員会 15:30
 ~16:40…新年会 18:00~20:10
 1/13(日)：朝食 7:00、出発 8:00…大山祇園神社
 手前展望台 8:30…大坊山 9:30…山頂番屋
 10:30…大小山手前、昼食 11:30…妙義山
 13:00…大小山…やまゆり学園 14:00…鹿島園P 15:00、解散 15:15

- 1/12(土)：13:10 足利市鹿島園駐車場に参加者9名が集合。駐車場にて開会行事(13:15~13:30)。日程説明後関根車、前田車に分乗し足利学校に向かう。
- 足利学校前の町営駐車場に駐車し、足利学校に入る。入口で足利市在住の堀越利男会員が我々を迎えてくれる。帰りには足利名物の最中を差し入れして頂く。感謝!である。今回は論語の素読を予約しており、すぐに係りの方に案内され、一般には解放されていない部屋で特別に論語素読の講義を受けることになる。「史跡足利学校 論語の素読を楽しむ」と題して浅野暉男先生のお話を聞き、先生に合わせて論語の一部分の素読を行う。予定は30分とのことであったが時間はかなりオーバーして熱心にお話しいただいた。『宥坐之器』など足利学校内を見学する。足利学校見学は初めての者が多く、論語の素読も楽しく貴重な体験をした。庭園の前で記念写真を撮り足利学校を後にする。駐車場の観光案内所で明日の大小山等の地図を頂く。15:20 鹿島園温泉に戻る。



足利学校にて記念撮影

○役員会の後、新年会を開催。13名が参加。山野井支部長の挨拶、坂口監事の乾杯で会が始まり、歓談の後参加者からの近況報告があり盛り上がった会となる。20:00過ぎに終了し宿舎に引き上げる。前田、小島会員は宿泊せず帰る。宿舎で2次会を行う。参加できない深谷会員から清酒『武勇』の差し入れがある。また、参加者からもおつまみやお酒の差し入れがあり、飲みきれなかった。差し入れいただいた方に感謝である。22:00時過ぎ就寝。



懇親会風景

○1/13(日) : 7:00に朝食をとり、牛窪・前田・仙石・長の4名と駐車場で合流。8:00に鹿島園駐車場を出発。地元の関根会員及びヤマケイの栃木の山(大坊山・大小山)の執筆者仙石会員に案内をお願いする。駐車場を出発し家の間の道路を行き登山道の入り口がわからず強引に尾根に取りつく。天気は素晴らしくよく暖かい。8:30大山祇神社手前の展望台で小休止。足利の町の展望が素晴らしい。大山祇神社を参拝した後、大坊山の登りにかかる。かなりの急登でどんどん高度を稼ぐと広い大坊山頂上である。9:30分に到着し記念写真を撮る。大坊山頂上には大山祇神社があったが落雷で焼失し現在の位置に移されたそうだ。大坊山から岩の稜線をアップダウンを繰り返して「山頂番屋」に10:30到着。大坊さん手前のツツジ山からは日光連山をはじめこれから縦走する大小山が望める。山頂番屋の番家主関野義治氏が山野井支部長と幼馴染で久しぶりに再会し昔話に花を咲かせていた。また仙石、関根会員とも旧知の間柄であり、一緒に記念写真を撮るなど歓待される。また、帰りにはお守りの記念品を頂戴する。30分以上休憩しなかなか立ち去りがたかったが先を急ぐことにして別れる。番屋から急坂を下り越床峠を越える。11:30大小山手前で昼食。ロープの張られた岩稜を越えると妙義山である。13:00到着。山頂は二等三角点がある狭い場所である。ここからの展望は素晴らしく360度遮るものがない。ここまで来ると登山者が急に多くなる。記念写真を撮り早々に下山する。急な岩稜を下り大小

山(282m)に到着。一部の人は東屋のある見晴台を往復し、下から『大』『小』の文字がかけられた看板を見に行く。その後尾根筋を下り、14:00やまゆり学園到着。クッキーなどを買い田んぼのあぜ道を通りながら、1時間ほどかけて、鹿島園温泉駐車場に15:00到着。鹿島園温泉駐車場で簡単な解散式を行い15:15解散する。



大坊山頂に全員勢揃い



上・下ともに妙義山頂



第4回・三支部合同懇談会

日時：2013年2月2日(土)～3日(日)
場所：リバーサイド奥久慈『福寿荘』
生瀬富士、袋田の滝・国寿石太子
参加者：本支部から山野井、森、渡邊、坂口、
牛窪、石澤、上田、関根、藤田礼子の9名
千葉支部17名、茨城支部14名…総勢40名
行動概要
2/2(土)：大子町中央公民館 13:15、開会行事
13:50～16:40＝福寿荘移動、懇親会 18:00
2/3(日)：宿舎発 8:50＝第二P 9:30…生瀬山
頂 10:40…第二P 12:15、昼食 13:00、解散

- 2/2(土)山野井、森、渡邊、牛窪の4名は石澤宅に集合、12:30 出発。坂口、関根、上田(藤田同乗)の4名は直接大子町中央公民館へ。13:15 大子町公民館で受付。13:50 参加者全員が揃い予定より早くで開会行事開始。浅野事務局長のあいさつの後、星埜支部長より『信仰と立山・地図による立山信仰』と題した講演、その後境会員による『茨城の山辞典』及び『筑波山神社御座替祭』と題した講演がある。16時講演会が終了し、各支部の活動報告がある。栃木支部からは、渡邊事務局長が24年度の栃木県支部の各行事を中心に発表した。3支部の発表が16時40分に終了し、今宵の宿であるリバーサイド奥久慈『福寿荘』に移動する。
- 温泉で汗を流し、18:00より懇親会。3支部長のあいさつがあり、山野井支部長からは、次年度は足尾で開催されるので多数の方の出席をお願いしたいとの挨拶。その後、奥井副支部長の乾杯で懇談に入る。シガ酒が珍しくおいしかった。20:10 酒井

会員により中締めの後、翌日の行動説明を聞きお聞きになる。部屋に戻り栃木支部会員が全員集まり、茨城支部からの差し入れのお酒おつまみを肴に2次会を行う。懇親会、2次会とも酒が飲みきれないほど多く盛り上がった。

- 2/3(日)早朝久慈川の『しが』見学が予定されていたが、気温が高く『しが』は見られなかった。朝食後8:50車4台に分乗し、大子町無料第二駐車場に移動。第二駐車場で参加者全員の記念写真を撮る。A班(森氏、渡邊、坂口、牛窪、石澤、上田、関根、藤田)、B班(山野井)に別れて9:30 出発。天候は晴れで暖かい。袋田第一駐車場からを左折し、国寿石太子工房「岱山」入り口から登山道に入る。20分ほど平坦な道を歩き、急登が始まったところで小休止。途中から日光の山、久慈川の眺めが素晴らしい。岩場の急登を登り鎖場に過ぎると間もなく頂上である。生瀬富士山頂は狭く、北側に張り出した見晴らしの良い痩せ尾根で大休止。山頂着10:40。ここからは、里見の風力発電、福島との県境の山、茨城の最高峰八溝山が眺められる。ここで記念写真を撮る。帰りは往路を戻る。11:10 下山開始。滑りやすい岩場を慎重に下る。途中一度小休止をし12:15 駐車場到着。ここでB班の山野井支部長と合流。車に荷物を置き、駐車場わきの手打ち蕎麦処『ふじた』で昼食の蕎麦を食べる。12:30 から30分以上待たされてやっと蕎麦が来る。蕎麦を食べ13:30 駐車場で坂口会員と別れ、3台(石澤車、関根車、上田車)に分乗し、蒟蒻関所、西之内の和紙会館、舟納豆に寄り茨城のお土産を買ったり和紙を見学したりする。15:00 石澤宅到着。お茶を飲み、16:00 過ぎ解散。

駐車場にて記念撮影



栃木支部参加メンバー



開会行事風景



後藤会員の学校が山の雑誌に掲載されました！！！！

樫(えい)出版社から刊行されている『PEAKS』という山の雑誌がありますが、その4月号に後藤会員の勤務先の大田原高校山岳部が掲載されたので載せておきます。なお下の写真の左端が同会員ですが、高校生以上に「はっちゃけちゃって」いますね。

山の部活 潜入調査

部員

こんにちは!

さん

数ある部活のなかでも、山に登ることを主眼とした部活。そんな「山の部活」で汗を流す部員さんたちを直撃取材! 彼らの「素」の姿を深き彫りにしてみなさんに紹介しちゃいます。

文筆仲村玄祐 Text by Tsunenon Nakamura 写真高橋節子 Photo by Ruko Takahashi

第11回

大田原高等学校山岳部

創立年/1966年ごろ
部員数/20名

(前列右から) 加藤 龍くん、早井雄貴くん、金子紳士くん、西田拓己くん、神島一智くん、和田早人くん、部長、小川龍也くん、薄井健太くん、梶原大河くん、津久井椿平くん。(後列右から) 猪瀬龍樹、阿久津陽平くん、植松 龍くん、鈴木紅武くん、富田健太郎くん、山下那 慧くん、大島修平くん、猪瀬 慧くん、木下和也くん、小林亮吾くん、編 寛樹くん、猪瀬龍樹



山岳部こそ我らの存在意義です!

部活動終了後、部室に集まるみんなに、「山岳部とは」と質問してみた。「この学校に来る理由そのもの。ぼくたちの存在意義です!」
アツい返答に体がシビれた。

トレーニング後は教室でミーティング。春合宿の打ち合せと、卒業を控えた3年生に送る寄せ書きの件、それにスキー合宿の提案だ。しかし話題はどんどん逸れて、猪瀬先生も部員も笑顔が尽きない。

「ええ? もうキツいですよ!」
「いいのか? 雑誌に載るんだぞ」
部員たちの目の色が変わる。「おっしゃー!」というかけ声とともに、階段を駆け上がり、なんとも威勢がいい。みんな顔を真っ赤にして階段を降りてきた。

「よし、もう一本行ってみよう!」
「ええ? もうキツいですよ!」
「いいのか? 雑誌に載るんだぞ」
部員たちの目の色が変わる。「おっしゃー!」というかけ声とともに、階段を駆け上がり、なんとも威勢がいい。みんな顔を真っ赤にして階段を降りてきた。

「よし、もう一本行ってみよう!」
「ええ? もうキツいですよ!」
「いいのか? 雑誌に載るんだぞ」
部員たちの目の色が変わる。「おっしゃー!」というかけ声とともに、階段を駆け上がり、なんとも威勢がいい。みんな顔を真っ赤にして階段を降りてきた。

「よし、もう一本行ってみよう!」
「ええ? もうキツいですよ!」
「いいのか? 雑誌に載るんだぞ」
部員たちの目の色が変わる。「おっしゃー!」というかけ声とともに、階段を駆け上がり、なんとも威勢がいい。みんな顔を真っ赤にして階段を降りてきた。

「よし、もう一本行ってみよう!」
「ええ? もうキツいですよ!」
「いいのか? 雑誌に載るんだぞ」
部員たちの目の色が変わる。「おっしゃー!」というかけ声とともに、階段を駆け上がり、なんとも威勢がいい。みんな顔を真っ赤にして階段を降りてきた。

「よし、もう一本行ってみよう!」
「ええ? もうキツいですよ!」
「いいのか? 雑誌に載るんだぞ」
部員たちの目の色が変わる。「おっしゃー!」というかけ声とともに、階段を駆け上がり、なんとも威勢がいい。みんな顔を真っ赤にして階段を降りてきた。

編 奥部宛てにこの冬、一週の間、1人が届いた。



寒風吹きすさぶ中でも大高山岳部は止まらない!

試験も無事終わったこの日、栃木県北東部は強い風が吹いています。けれどそんなどこ吹く風! 20名の男子は部活やる気満々です。



学校そばの小山を駆け上り!

基本的にトレーニングのメニューは部員たちの自主計画に一任されている。この日は4km走ったあと、学校そばの竜北山へ。階段と林道をダッシュで駆け上がってはまた戻ってくる。バックパックを背負って走る4人はインターハイを目指す選抜チーム

部員数が増えすぎて引っこしました

ここ数年、部員が急増。運動部棟の個室が手狭になったため文化部長に閉鎖している。入口右手の廊下には部員のみんなの目標や決意が書かれている。「最低10km走る!」「夏山をあきらめない」など気合いの入った言葉が多数並ぶ



3年連続優勝の快挙を2度も達成!

栃木県の登山大会で3年連続優勝した記念に贈られた旗。1999～2001年、2009～2011年の2度もその快挙を成し遂げた。登山大会では4人ひと組で2泊3日の縦走を行なう。チームワークやテント設置などの技術を採点形式で競い合う



編集部宛てのメール送信の場面をコント風に披露!

左のピンクカーディガン男子がメールをくれた福見くん。携帯電話から送信した当時の様子を再現してくれた。「ぼくらのこと知ってもらいたかったんです」と横から落井くんがつつこむ。「勉強サボってただけだろ」



使い終わった机とイスはmm単位まできれいに直します

教室に行なわれる登山計画。登る山は顧問の猪瀬先生が提案する。そのうち話題はこの日終わった試験のことへ。終了後は机とイスを並べ直して退室。「きれいに戻さないと思われちゃいます!」

ぼくらの山活報告!

去年の夏合宿、奥穂高岳を目指したときの1枚。部員みんなの背後には穂高山荘の屋根が見える。このほか、冬は雪山合宿も行なう。-10℃以下の環境を部員全員が乗り切った。また、富士登山、毎年行なわれる登山大会の下見を兼ねた登山など、1年を通して積極的に登っている。大田原高校山岳部の元気の源はやはり山にあるのだ



今月の山の逸品



部員手作りの山道具

山で使用するシングルバーナー用の風防。面をよけて燃焼効率アップ。部員たちによる手作りで、薄い紙とゴムテープで作られている。折れたためばりたくなりバックパックに入れたときもかさばらない



このワッペンを各校の陣取りです。山岳部専用のバックパック。校名の入ったワッペンはインターハイ出場時のもの。これも背負って登山大会に参加する。トレッキング時は15分ほどの集りに調整する

支部会員名簿

【2012(平成24)年6月2日現在】

No.	会員番号	氏名	備考
1	4146	日下田 實	顧問
2	4255	堀越 利男	
3	4633	山野井 武夫	支部長
4	4661	森 元一	
5	5201	松井 芳隆	
6	5346	沖 允人	監事
7	6189	小島 守夫	委員
8	6956	井上 孝郎	
9	7914	渡邊 雄二	事務局長
10	7973	坂口 三郎	監事
11	8383	前田 洋子	
12	8386	牛窪 光政	
13	8432	前田 文彦	委員
14	9265	石沢 好文	委員(事業)
15	9267	臼田 徳雄	
16	9307	佐藤 清衛	
17	9350	山本 武志	委員
18	9921	乾 能尚	
19	10416	上田 景子	事業
20	10459	仙石 富英	委員(事業)
21	10885	蓮實 淳夫	自然保護
22	10909	中村 靖弘	
23	11381	関根 和男	
24	11402	渡辺 剛	
25	12503	菱田 克彦	
26	13906	吉田 春彦	
27	14400	梶谷 博	
28	14419	斎藤 隆	
29	14438	神島 仁誓	委員(事業)
30	8282	上野川 孝一	
31	12466	長 百合子	
32	14475	北見 正光	
33	14483	東 和之	自然保護
34	14510	桑野 正光	
35	14518	猿山 浩	事業(山)
36	14527	稲葉 昌弘	事業
37	14529	麦倉 常治	事業(山)
38	14536	後藤 尚	事業(山)
39	14626	内間 茂	
40	14646	杉田 茂久	
41	14650	早川 和子	
42	14652	山口 富蔵	
43	14656	石井シモ子	
44	14667	増渕 仁一	
45	14674	船村 徹	
46	14679	仲島 正子	事業
47	14681	吉澤 照子	
48	14721	鈴木 清一	
49	14914	片柳 洋	
50	14915	片柳 澄子	

平成24(2012)年度 総会の記録

日時：2012(平成24)年6月2日(土)

総会 16:00～【3F研修室】

懇親会 17:00～【2Fバンケットホール】

場所：コンセーレ【(財)栃木県青年会館】

◇◇総会次第◇◇

進行：神島 仁誓

- 1 開会の言葉 小島 守夫
- 2 支部長挨拶 山野井 武夫
- 3 来賓挨拶 【理事長不在のため省略】
- 4 議長選出 議長：仙石 富英
- 5 議事
 - (1)平成23年度事業報告について 渡邊 雄二
 - (2)平成23年度決算報告について 石澤 好文
 - (3)監査報告 坂口 三郎
 - (4)平成24年度事業計画(案)について 渡邊雄二
 - (5)平成24年度予算(案)について 石澤 好文
 - (6)公益社団法人日本山岳会栃木支部規約について 渡邊 雄二
 - (7)役員及び委員会委員について 渡邊 雄二
 - (8)24年度支部会員名簿について 渡邊 雄二
 - (9)その他
- 6 出席者近況報告(新会員紹介)
- 7 閉会の言葉 山本 武志

◇◇懇親会次第◇◇

進行：石澤 好文

- 1 開会の言葉 石澤 好文
- 2 顧問挨拶 日下田 實
- 3 乾杯 坂口 三郎
懇談 (会員によるスピーチ)
- 4 閉会の言葉 石澤 好文

※なお議事については、全て原案通り承認されました。

栃木支部役員

顧問 日下田 實(4146)
 支部長 山野井 武夫(4633)
 副支部長 渡邊 雄二(7914)(事務局長)
 委員 小島 守夫(6189)
 前田 文彦(8432)
 石沢 好文(9265)(会計)
 山本 武志(9350)
 仙石 富英(10459)
 神島 仁誓(14438)
 会計監事 沖 允人(5346)

○各委員会委員

支部自然保護	委員長	石澤	好文(9265)
	委員	蓮實	淳夫(10885)
	委員	東	和之(14483)
山の日プロジェクト	委員長	麦倉	常治(14529)
	委員	猿山	浩(14518)
	委員	後藤	尚(14536)
事業委員会	委員長	麦倉	常治(14529)
	委員	前田	文彦(8432)
	委員	石澤	好文(9265)
	委員	上田	景子(10416)
	委員	仙石	富英(10459)
	委員	神島	仁誓(14438)
	委員	猿山	浩(14518)
	委員	稲葉	昌弘(14527)
	委員	後藤	尚(14536)
	委員	仲島	正子(14679)

事務局より

- 高山病にでもかかったかと思うほど青息吐息！！
“ふ～ふ～、ぜえ～ぜえ～”
- それでも何とか、どうにかこうにか『栃木支部報』第6号を総会当日みなさんにお届けすることができました。
- それぞれの事業の記録担当者が報告書のデータをメール等で送付していただけるので助かっています。感謝！感謝！ただし、スペースの関係で各事業報告をそのまま掲載することはできませんので、編集担当が適宜省略したり、できるだけ文面を統一するために文言を変更したりしておりますので、ご了承ください。
- 今回は会員投稿のページに、前田文彦会員のオハイオ通信と、蓮實淳夫会員の俳句を載せることができました。両会員に御礼申し上げます。
- 事業報告だけでなく、いろいろなページを考えたいと思います。今後とも、個人山行の文・写真、ご自分でこだわって調べていること、私のこだわりの趣味等々、新企画のご提案等がありましたらご遠慮なさらずにご一報ください。みんなで支部報を作り上げてまいりましょう！！

平成24(2012)年度事業計画

1	栃木支部報第4・5号発行	H24・04・01
2	春山登山	H24・04・15
3	平成24年度総会	H24・06・02
4	日光山系清掃登山	H24・07・01
5	第5回山岳映画の夕べ	H24・07・07
6	親子登山教室	H24・07・28～29
7	夏山山行・懇親会	H24・08・25～26
8	那須岳クリーンキャンペーン	H24・09・02
9	第4回ヒマラヤの集い	H24・10・?
10	秋山山行	H24・10・?
11	第6回秋季講演会	H24・11・?
12	新年会・冬山山行	H25・01・?～
13	三支部合同懇談会	H25・02・?～

平成24(2012)年度予算

I 収入 450,000円
(内訳) 支部会費 100,000円 (@2,000円×50人)
助成金 107,500円 (@2,500円×43人)
繰越金 212,440円
雑収入 30,060円
II 支出 450,000円
(内訳) 通信費 100,000円 (総会, 支部通信の郵送費等)
事業費 250,000円 (講演会・支部だより等)
会議費 40,000円 (総会, 集会の会場費等)
消耗品費 40,000円 (事務用品等)
予備費 20,000円
III 残額 0円

☆☆☆ あとがき ☆☆☆

- 今回は、新事業の親子登山教室にページを多くさいてみました。子どもたちの楽しそうな表情がいいですね。
- また、楽しい企画のご提案、山行等の寄稿があればどうぞお寄せください。(カミジ)

